



## 常磐線全線開通から1年！働く私たちが

## 「安全労働」「健康労働」「新たなエネルギー政策」を

## 考えるオンラインシンポジウム開催！

JTSUは3月20日（土）、「常磐線全線開通から1年！働く私たちが『安全労働』『健康労働』『新たなエネルギー政策』を考えるオンラインシンポジウム」を開催し、組合員、一般・オンライン参加者も含め70名を超える方々に参加していただくことができました。



JTSUは昨年、「常磐線全線開通に伴う労働政策（中間報告）」を発表し、この中で5つの基本政策を打ち出し運動を進めてきました。

シンポジウムでは、今年3月、東日本大震災・原発事故から10年、常磐線全線開通から1年の節目を迎え、「常磐線で働く私たちと乗客の命と健康は本当に安全か？」「被災地域の方々が安心して暮らせるまちづくりはどうあるべきか」「原発に依存しない新たな自然エネルギーへの転換の重要性について」の視点でパネルディスカッションをおこないました。

ディスカッションでは、常磐線で働く仲間たちの職場現実、健康への不安、地域住民の声をもとに、各分野の専門家の意見も交えることができましたことで、私たちの労働政策をより質の高いものへと高めることができました。



私たちの打ち出した「常磐線全線開通に伴う労働政策（中間報告）」はまだ道半ばであり、今回のシンポジウムで議論した内容以外にも数多くの政策があります。

JTSUはこのシンポジウムを労働政策実現のための「新たなスタート」として位置づけ、打ち出した各労働政策の質を高めるため、そして実現に向けて地域の皆さんや関係する方々との連携を更に深めていきます。

※このシンポジウムの詳細は冊子にまとめて今後発行する予定です。

JTSU ホームページにてお知らせいたします。